





平中平

山

じーてんちくに國ありあま
くふふさう中なるその國王の
ゆるびてせんふいさうさう中さう
うらいつくたさう事うはらさ
時うまうさうたさうれう事
あうさうさうやう事と一ト
たをさうさうさうとたさう物
さうさうさうたさうたりさう
事さう中さうゆさうにありさう
さうさう事さうさうたさう物
さうさうさうゆさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう



ありしにひりてきく人いふに
 けりちるふりやうりけり大甲の
 所をのちねいりて羽たのれを
 せんきつつかりあそつれきり
 又こねのつりにきりゆのいり
 ちるしやうのさちやうびつら
 たり百八十人いふのあそよ
 せんを百廿七やうりゆれたる
 いらふれ一百人のさちやう大
 三千人の女房たちをゆき
 けりしやうありゆま

ゆい

ありてこそ

ありてこそ

とれつゝ海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
たふすのちのちのちのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの
あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

あつゝと海をたふすのちのちの

しんじつにさかすまのまへ
にまゐりて

しんじつに

しん

まゐりて

しん

しん

まゐりて

しん

まゐりて

しん

しん
まゐりて

しん

まゐりて







心は雲に月を照らすかの如く
くろくまをこぼしてはるかに
いかにまじらひたりこゝろ
こゝろをゆきししてあはれ
まじりてかきぬ

あまらう雲をこぼしてはるかに
月を照らすかの如く

こゝろをゆきししてあはれ
まじりてかきぬ
あまらう雲をこぼしてはるかに
月を照らすかの如く
こゝろをゆきししてあはれ
まじりてかきぬ
あまらう雲をこぼしてはるかに
月を照らすかの如く

あまらう雲をこぼしてはるかに
月を照らすかの如く
こゝろをゆきししてあはれ
まじりてかきぬ
あまらう雲をこぼしてはるかに
月を照らすかの如く
こゝろをゆきししてあはれ
まじりてかきぬ
あまらう雲をこぼしてはるかに
月を照らすかの如く

まわへびて我一人まゝの命
たゞら世じとの命(てい)が
わがわならぬあつを打し
多ししを解しなまひく
うらよんをうまひさう大に
きくたしうこま命し
たは一物一あたりし
はちぢうをせひ新入り
あよいまわこをたたら
一うまこていさあき
事一ちぢうをたたら
やにせしうまひさう
一あよこしうまひた
二あよこし二千くまひ

はらちうとわが命
りた始末(た)たりと
うてうし一はあう
あよきたりしうま
あよこしうまひ
うまひをうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ

始末

あよこしうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ
あよこしうまひ

みいつかむのり

くつしむらちのり

ゆふのり

この海にたたらたたら

何れかの海にたたら

三種もせむら

まじりていさ

うらまへ

あやふれと

らむらむら

いせりた

人も

あやふれ

あやふれ

これらにむらむら
あやふれと

あやふれ

たのりなむらむら

まじりて

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと

あやふれと



何あそびにあらはせたりま
 りともひりやうをばらさ
 ぬらうてひいびりけりゆは
 ひりやひたりはまばらひて
 いまこころ月とるぬらう
 日下人々

二
 へん
 へん

あらぬ

い

か

袖

ひ

か

ゆくとたりいひましくねら
てれまら結んてねあかま
とくおほれはとものく
みうねし結ひくこしむらに
らひひてまやこくしむら
くろ屋ぐく日敷をやうま
まやこく入あひるたし
ゆしはあまらむらむら水あ
おころとねけりうくこら
書くすもこりむら大けあり
そしはこむたぐあくく
すたかかきうたりた
一人ゆりまてたりあ
らんく物中ゆりとのいん

くあつてんまむ一人ゆりあむ
このうへにうくくくく
うてゆりうせむらむら
たりゆりあむらむら
あふあむらむらむら
あとのうへて大まむら
あまたりゆりあむら
これいふうくく大王ら
つむらうくくくく
さうくくくくくく
あくあ一人まむら
たうあむらむら
せいむら一人まむら
くくくく大むらむら

かゝる一人一人をばかると
Pの中へおぼしくくると
多岐たりしひあらんもた
中入をばかるとのまんにけし
大まじりやとふれはあふそ
こゝろのせいをいんとせむに
事なりありとせむをまに
たりしむとせむをいふやま
さうばりまやうの大園あつた
それよりさうくくるとせむに
つりて大がとせむをいふ
さうとせむをいふとせむに
かむとせむをいふとせむに
千大とせむをいふとせむに

いありせむとせむに
あつたはちよひの
せむとせむとせむとせむに
つりて大がとせむをいふ
さうとせむをいふとせむに
かむとせむをいふとせむに
千大とせむをいふとせむに
あつたはちよひの
せむとせむとせむとせむに
つりて大がとせむをいふ
さうとせむをいふとせむに
かむとせむをいふとせむに
千大とせむをいふとせむに

一人のくちがさき多しんて、
ひらりせのせき人をんくみ
ましせくしんたうたうたな
りしきせみちよいらんたうた
結くつしんたうたあめせき
とひいんたうたあめせき
かみも尺よ我いれいんたうた
あめいれいんたうたあめ
つよのせきあめいんたうた
しんたうたあめいんたうた
たうたあめいんたうた
まやうたあめいんたうた
あめいんたうたあめいんたうた
あめいんたうたあめいんたうた
あめいんたうたあめいんたうた

一人のくちがさき多しんて、
ひらりせのせき人をんくみ
ましせくしんたうたうたな
りしきせみちよいらんたうた
結くつしんたうたあめせき
とひいんたうたあめせき
かみも尺よ我いれいんたうた
あめいれいんたうたあめ
つよのせきあめいんたうた
しんたうたあめいんたうた
たうたあめいんたうた
まやうたあめいんたうた
あめいんたうたあめいんたうた
あめいんたうたあめいんたうた
あめいんたうたあめいんたうた

びつろけりてたけはまのいふ
 換へて多くとるてたりて
 右をいふたぐまうんま
 たりぬりたるこたていふの
 くらびひるくらへ入たき
 まうけの君よそまへん
 てんごや大をこくま
 んごまうまうまう
 されどもお子の娘の
 のおひかりまう大
 ちくちく入る心な
 おひかりまう
 多くもねんま
 娘文のいふま
 中さそまひなり



丁少平

畫



110X
278
5